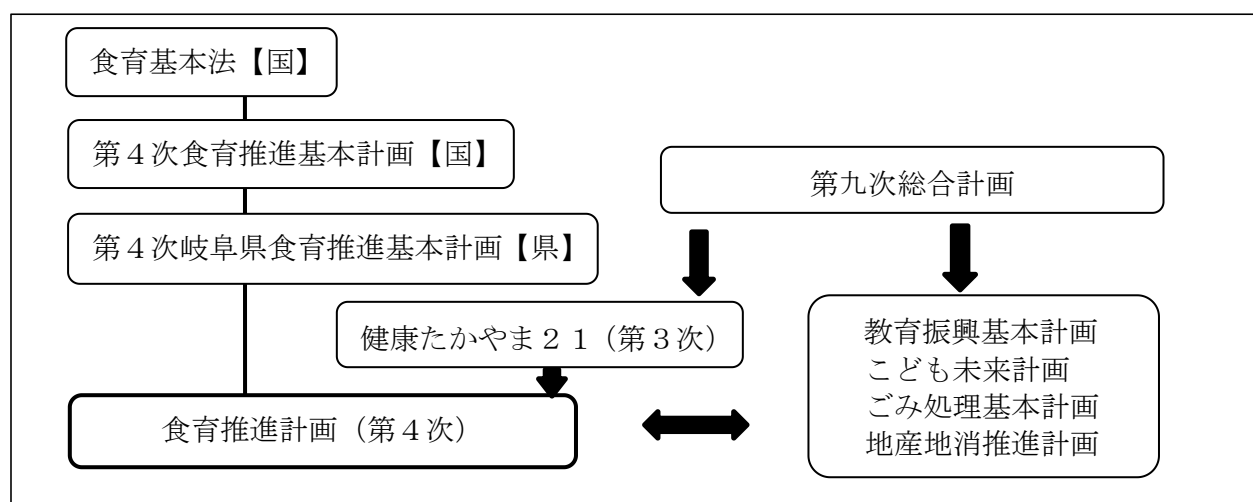


高山市食育推進計画（第4次）の策定について

1. 計画の位置付け等

本計画は、食育基本法第18条第1項に基づき、国の食育推進基本計画及び岐阜県食育推進基本計画等を基本として策定している計画である。

現計画期間（平成29年度から令和6年度まで）の終了に伴い、第九次総合計画を最上位計画として、健康たかやま21等の関連計画と整合を図りながら、食育を総合的かつ計画的に推進していくための行動計画として策定する。



2. 計画の期間

令和7年度～令和11年度（5年間）

3. 現状と課題

- (1) 現計画の評価
- (2) 課題の整理

別紙1

別紙2

4. 計画の概要

- (1) 策定のポイント（基本理念、重点課題、主な取り組み）
- (2) 施策体系
- (3) 目標指標

別紙3

別紙4

別紙5

5. スケジュール

令和7年 3月 策定、公表

現計画の評価

食育の推進にあたり、より効果的で実効性のある施策を展開するために、成果や達成度を客観的な指標により把握するため、4つの目標についてそれぞれ項目及び対象を設定し、その達成が図られる取り組みを推進してきた。

○目標達成 △目標達成していないが改善している ×改善していない

目 標	項目及び対象	H28	目標値	市の 現状値 (R5)	評価		県の 現状値 (R5)
食の大切さを理解し、健全な食を实践する	生活習慣病予防のため運動や食習慣の改善に取り組んでいる市民の割合	(H29) 32.1%	80%以上	38.6%	△	※1	43%
	肥満者の割合	24.7%	15%以下	28.8%	×	※1.2	(R4) 25.9%
	20～60 歳代男性 40～60 歳代女性	14.4%	10%以下	15.8%	×	※1	17.0%
	幼児（3 歳児）のむし歯のり患率	21.1%	18%以下	(R3) 11.4%	○	※3	(R3) 7.8%
楽しく食事をする習慣を身につける	朝食を家族や仲間と一緒に食べる人の割合						
	小学生	82.0%	95%以上	76.9%	×	※4	78.6%
	中学生	71.0%	80%以上	68.8%	×		61.8%
	朝食を 3 歳児	1.9%	0%	3.3%	×	※5	(R4) 4.1%
	小学生	1.2%	0%	0.9%	△	※4	1.8%
	中学生	1.4%	0%	2.9%	×	※4	7.9%
	20 代男性	33.3%	15%以下	23.9%	△	※2	32.5%
	20 代女性	25.0%	10%以下	18.9%	△	※2	28.3%
	30 代男性	11.4%	10%以下	23.1%	×	※2	24.6%
地元食材を積極的に取り入れるとともに、地域の伝統的な食文化を継承する	学校給食使用食材に占める飛騨産食材の比率(重量ベース)	64.0%	67.0%	63.9%	×	※6	(R4) 60.3%
	地元産の農産物を意識して活用した食生活を送っている市民の割合	83.8%	100%	76.1%	×	※7	76.1%
	正しい箸の使い方ができる小学生の割合	51.1%	100%	35.1%	×	※8	—
食に対する関心と、感謝の気持ちを深める	食事の際にあいさつができる小学生の割合	67.5%	100%	67.8%	△	※4	70.2%

※1 R5 年度 高山市特定健康診査結果

※2 R5 年度 高山市健康診査結果

※3 R5 年度 高山市 3 歳児健診結果

※4 R5 年度 高山市教育研修会「食生活アンケート」・・・ただし、小学生は 4 年生～6 年生の計

※5 R4 年度 岐阜県 3 歳児の食生活実態調査

※6 R5 年度 高山市学校給食センター調べ

※7 R5 年度 県農産物の消費行動・認知度等に関するアンケート調査結果（県民の現状値）

※8 R5 年度 市食育アンケート調査（箸の持ち方）

課題の整理

国や県における食をめぐる現状・課題
・人口減少、少子高齢化 ・核家族化、ひとり親世帯の増加、高齢者のみの世帯又は一人暮らしの高齢者の増加など、家庭環境の多様化 ・成人男性の肥満、若い女性のやせ、高齢者の低栄養 ・食に関する価値観や暮らしの在り方の多様化（県） ・地域の伝統的な食文化が失われていくことへの危惧 ・総合食料自給率 38%（令和2年度）（国） ・地球規模の気候変動の影響の顕在化（国） ・食品ロスの対策 ・社会のデジタル化（国）
市における食育に関する課題等
①市の現状・課題 ・肥満者の増加に伴う生活習慣病の発症リスクが増大 ・高血圧につながる塩分摂取量が引き続き高い水準 ・野菜摂取量は国の目標値に達せず横ばいで推移 ・ぎふ・すこやか健診の質問票では「固いものが食べにくい」「汁物等でむせる」割合が県、国に比べて高い ・「孤食」の増加により栄養の偏りや好き嫌いが助長 ・朝食を欠食する人の割合の増加 ・核家族や単身世帯の増加による家庭での健全な食生活の実践が難しい ・まだ食べられる食品が大量に廃棄されている（家庭系ごみの約 13%、事業系ごみの約 30%） ②市民や関係団体等からの意見 ・共働きで忙しい中、自炊する家族の減少 ・郷土料理を作る機会の減少 ・食事の際にあいさつのできる小学生の割合が増えることが重要 ・生涯にわたって食育の推進が重要

策定のポイント

〈基本理念〉

「食の大切さを理解し、食を通じて豊かな人間性を育む」

～豊かな恵みに感謝し、食からはじまるまちづくり～

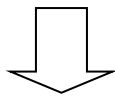
※食育推進計画（第3次）を引き継ぐ

〈重点課題〉

（食育推進計画（第3次））

重点課題

- 1) 健康寿命の延伸につながる食育の推進
- 2) 家族や仲間と楽しく食卓を囲む機会の増進
- 3) 地元食材と食文化への理解と醸成



（食育推進計画（第4次）（案））

重点課題

- 1) 健康寿命の延伸につながる食育の推進
- 2) 食の大切さや楽しさがわかる食育の推進**

人口減少や少子高齢化が進み、世帯構成が変化するとともに、食に関する価値観や暮らし方の在り方も多様化しているため、多様な暮らし方に配慮し、地域や所属（職場等）、様々な場面を通じて食の大切さや楽しさを伝える取り組みが必要である。

3) 食を取り巻く環境や食文化への理解を深める食育の推進

SDGs の推進や食の安心安全などを考慮しながら食育を推進することや、郷土料理など伝統的かつ多様な食文化を次世代へと継承するための取り組みが必要である。

〈主な取り組み〉

①家庭における食育の推進

- 健康づくりのためのバランスのよい食生活の推進 …（新規）
 - ・食に関する情報があふれる中、正しい情報を見極め、自分に合った食を選択できる力をつける必要がある。
- 口腔ケアの推進 …（拡充）
 - ・口腔機能の低下が全身の機能低下につながるため、オーラルフレイル予防が必要である。
- 楽しく食事をする習慣を身につける …（拡充）
 - ・全世代を通じた朝食の大切さを啓発していく必要がある。

②学校・保育園等における食育の推進

- 食に関する正しい知識の普及 …（拡充）
 - ・新給食センターを活用した小中学校児童生徒等への取り組みが必要である。

③地域における食育の推進

- 健康づくりのためのバランスのよい食生活の推進（新規再掲）
- 肥満、糖尿病予防のための食生活の推進 …（新規）
 - ・地域全体で生活習慣病予防の取り組みを強化していく必要がある。
- 地域における学習機会や交流の場の提供と普及啓発 …（拡充）
 - ・豊かなこころを育むため、所属するコミュニティのつながりが必要である。
- 地産地消の推進 …（拡充）
 - ・地域で親しまれてきた料理や行事食の伝承啓発が必要である。
- 食品ロス削減の推進（再掲）…（拡充）
 - ・食品ロス削減の取り組みが地域全体で必要である。

施策体系

第3次計画

(1) 分野別の推進

①家庭における食育の推進

目標の項目	取り組みの項目	取り組みの内容
■食の大切さを理解し、健全な食を実践する	■生活習慣病の発症・重症化予防	・乳幼児健診や相談事業、成人の事後指導の場を利用して、一人ひとりの健康状態に応じた栄養や運動の指導の充実
	■生活リズムの向上	・乳幼児期から望ましい生活リズムを取得できるよう乳幼児健診、相談事業での指導を強化
	■口腔ケアの推進	・特に妊婦や成人、高齢者における歯科検診の受診を勧奨 ・よく噛んで食べる習慣の定着のための啓発 ・食後の歯磨き習慣の定着、相談事業の充実
■楽しく食事をとる習慣を身につける	■楽しく食事をする習慣づくり	・乳幼児健診、相談事業において、家族や仲間と楽しく食事を取ることの大切さを啓発
■地元食材を積極的に取り入れるとともに、地域の伝統的な食文化を継承する	■地元食材の利用促進	・地元食材に対する理解と利用の促進 ・安全な食品を選択できる知識の普及
	■伝統的な食文化の継承	・共食を通じて、郷土食や伝統食材の理解、継承の推進
■食に対する関心と感謝の気持ちを深める	■あいさつや食事の作法に対する啓発	・食に対する感謝の気持ちを表す「いただきます」「ごちそうさま」といったあいさつの習慣や、正しい箸の使い方など食事の作法の向上に関する啓発
	■食品ロス削減の推進	・食品ロスに関する理解の促進 ・家庭におけるごみの減量化の促進



第4次計画

(1) 分野別の推進

①家庭における食育の推進

※太字部分は見直しや拡充などの施策（新規◎、拡充○）

目標の項目	取り組みの項目	取り組みの内容
■食の大切さを理解し、健全な食を実践する	ア) ■健康づくりのための バランスのよい食生活の推進	◎広報等による 栄養や食の安全性に関する正しい知識の普及啓発 ◎出前講座等による 自らが食を選択する力を身につけるための指導の充実
	イ) ■生活習慣病の発症・重症化予防	・ 母子健康手帳交付や妊婦教室 、乳幼児健診、相談事業、成人の事後指導の場を利用した、一人ひとりの健康状態に応じた栄養や運動の指導の充実
	ウ) ■生活リズムの向上	・乳幼児期から望ましい生活リズムを取得できるよう乳幼児健診、相談事業での指導の充実
	エ) ■口腔ケアの推進	・特に妊婦や成人の歯科検診や高齢者における 口腔健診 の受診の勧奨 ・よく噛んで食べる習慣の定着のための啓発 ・食後の歯磨き習慣の定着、相談事業の充実 ○ オーラルフレイル予防の啓発
■楽しく食事をとる習慣を身につける	オ) ■楽しく食事をする習慣づくり	・乳幼児健診、相談事業における家族や仲間と楽しく食事を取ることの大切さの啓発 ○ 出前講座等による全世代を通じた朝食の大切さの啓発
■地元食材を積極的に取り入れるとともに、地域の伝統的な食文化を継承する	カ) ■地元食材の利用促進	・地元食材に対する理解と利用の促進 ・安全な食品を選択できる知識の普及
	キ) ■伝統的な食文化の継承	・共食を通じて、郷土食や伝統食材の理解、継承の推進
■食に対する関心と感謝の気持ちを深める	ク) ■あいさつや食事の作法に対する啓発	・食に対する感謝の気持ちを表すあいさつの習慣や正しい箸の使い方など、食事作法の向上に関する啓発
	ケ) ■食品ロス削減の推進	・食品ロスに関する理解の促進 ・家庭におけるごみの減量化の促進

②学校、保育園等における食育の推進

目標の項目	取り組みの項目	取り組みの内容
■食の大切さを理解し、健全な食を実践する	■「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進	・高山市幼保小連携協議会を中心に「早寝早起き朝ごはん」運動の積極的推進
	■食に関する正しい知識の普及	・自分の身体と食とを関連して考えることができるようになる学習の場の提供 ・家庭においても食育に積極的に取り組めるよう、保護者に対し情報の提供や学習の機会を提供
■楽しく食事をとる習慣を身につける	■望ましい食習慣の定着	・給食の時間を中心とした、望ましい食習慣、食事マナー、好ましい人間関係づくり等を楽しみながら学ぶ機会の提供と、指導の充実
■地元食材を積極的に取り入れるとともに、地域の伝統的な食文化を継承する	■郷土への愛着心の育成	・給食での地元食材の利用の推進 ・郷土についての理解を深めるため、給食で郷土食を利用したメニューを提供 ・行事食等（餅つきなど）の体験と継承
■食に対する関心と感謝の気持ちを深める	■「もったいない」と感じる気持ちの醸成	・教科や総合的な学習の時間を活用し、調理や農業体験を通じた食に対する理解の促進 ・給食の残食の低下



②学校、保育園等における食育の推進

目標の項目	取り組みの項目	取り組みの内容
■食の大切さを理解し、健全な食を実践する	ア) ■「朝のスタートプラン」 取り組みの推進	・高山市幼保小連携協議会を中心とした 「朝のスタートプラン」 取り組みの積極的な推進
	イ) ■食に関する正しい知識の普及	・自分の身体と食とを関連して考えることができるようになる学習の場の提供 ・家庭においても食育に積極的に取り組めるよう、保護者に対する情報提供や学習機会の提供 ○ 新学校給食センターを活かした、小中学校児童生徒等への食の大切さの啓発
■楽しく食事をとる習慣を身につける	ウ) ■望ましい食習慣の定着	・給食の時間を中心とした、望ましい食習慣、食事マナー、好ましい人間関係づくり等を楽しみながら学ぶ機会の提供と指導の充実
■地元食材を積極的に取り入れるとともに、地域の伝統的な食文化を継承する	エ) ■郷土への愛着心の育成	・給食での地元食材の利用の推進 ・郷土についての理解を深めるための給食で郷土食を利用したメニューの提供 ・行事食等（餅つきなど）の体験と継承
■食に対する関心と感謝の気持ちを深める	オ) ■「もったいない」と感じる気持ちの醸成	・教科や総合的な学習の時間を活用し、調理や農業体験を通じた食に対する理解の促進 ・給食の残食率の低下

③地域における食育の推進

目標の項目	取り組みの項目	取り組みの内容
■食の大切さを理解し、健全な食を実践する	■高血圧ゼロキャンペーンの推進	・地域全体で、減塩を中心とした食習慣を普及する活動の推進
■楽しく食事をとる習慣を身につける	■地域における学習機会の提供と普及啓発	・「食育月間」「食育の日」の啓発により、「共食」を推進
■地元食材を積極的に取り入れるとともに、地域の伝統的な食文化を継承する	■地産地消の推進	・地元食材に対する理解と利用の拡大を図るため、その特徴や調理方法などの情報を発信 ・飛騨高山ブランドに対する理解の促進 ・安全・安心な地域農産物を購入する機会の提供
	■食育ボランティアの育成と活動の充実	・食育ボランティアの養成、育成の推進 ・食育ボランティアによる食育普及の推進のため、ボランティア活動の支援
■食に対する関心と感謝の気持ちを深める	■食農教育の推進	・食や農の体験の機会を増やし、世代に応じた「食農教育」を推進
	■生産者と消費者の交流の促進	・生産や収穫体験、各種イベントを通じ、生産者と食品関係者を含む消費者との交流を促進
	■「食べきり運動」の普及啓発	・「食べきり運動」のキャンペーンの実施や普及啓発



③地域における食育の推進

目標の項目	取り組みの項目	取り組みの内容
■食の大切さを理解し、健全な食を実践する	ア) ■健康づくりのためのバランスのよい食生活の推進	◎イベント会場等でバランスのよい食事（特に減塩や野菜摂取）を中心とした健全な食習慣を普及する活動の推進
	イ) ■肥満、糖尿病予防のための食育の推進	◎健康教室等で肥満、糖尿病予防のための指導の充実 ◎世界糖尿病デー等の機会を通じた、望ましい食習慣の啓発
■楽しく食事をとる習慣を身につける	ウ) ■地域における学習機会や交流の場の提供と普及啓発	・「食育月間」「食育の日」の啓発による「共食」の推進 ○こども食堂等の場を通じた、地域コミュニティの推進
■地元食材を積極的に取り入れるとともに、地域の伝統的な食文化を継承する	エ) ■地産地消の推進	・地元食材に対する理解と利用の拡大を図るための地元食材の特徴や調理方法などの情報発信 ○「郷土料理教室」など、地域で親しまれてきた料理や行事食の伝承啓発 ・飛騨高山ブランドに対する理解の促進 ・安全・安心な地域農産物を購入する機会の提供
	オ) ■食育ボランティアの育成と活動の充実	・食育ボランティアの養成、育成の推進 ・食育ボランティアによる食育普及の推進のため、ボランティア活動の支援
■食に対する関心と感謝の気持ちを深める	カ) ■食農教育の推進	・食や農の体験の機会をとらえた、世代に応じた「食農教育」の推進
	キ) ■生産者と消費者の交流の促進	・生産や収穫体験、各種イベントを通じた、生産者と食品関係者を含む消費者との交流の促進
	ク) ■「食べきり運動」の普及啓発	・「食べきり運動」のキャンペーンの実施や普及啓発
	ケ) ■食品ロス削減の推進	○フードバンク等の活用による食品ロス削減の推進

（２）ライフステージ別の推進

	年齢のめやす	具体的な取り組み
妊娠期		健康なこどもを産み育てるための身体づくりの推進
乳幼児期	0 歳～5 歳	生活習慣の基礎づくりの推進
学齢期	6 歳～15 歳	規則正しい生活習慣確立の推進
青年期	16 歳～39 歳	生活習慣病予防と家庭においてこどもたちへの食育を推進する力の育成
壮年期	40 歳～64 歳	生活習慣病予防の推進
高齢期	65 歳以上	バランスの良い食生活の推進



（２）ライフステージ別の推進

	年齢のめやす	具体的な取り組み
妊娠期		健康なこどもを産み育てるための健全な食生活の推進
乳幼児期	0 歳～5 歳	生活習慣の基礎づくりの推進
学齢期	6 歳～15 歳	規則正しい生活習慣確立の推進
青年期	16 歳～39 歳	生活習慣病予防と家庭においてこどもたちへの食育を推進する力の育成
壮年期	40 歳～64 歳	生活習慣病予防の推進
高齢期	65 歳以上	バランスの良い食生活の推進

食育推進計画の指標・目標値

※太字部分は現計画(第3次)からの変更点

食育推進計画（第3次）							食育推進計画（第4次）案				データソース
目 標	項目及び対象	H28	目標値	市現状値 (R5)	評価※1	県現状値 (R5)	目 標	項目及び対象	現状値 (R5)	目標値 (R11)	
食の大切さを理解し、健全な食を実践する	生活習慣病予防のため運動や食習慣の改善に取り組んでいる市民の割合	(H29) 32.1%	80%以上	36.8%	△	43%	1. 食の大切さを理解し、健全な食を実践する	①生活習慣病予防のため運動や食習慣の改善に取り組んでいる市民の割合	36.8%	80%以上	高山市特定健康診査結果
	肥満者の割合					(R4)		肥満者の割合			高山市健康診査結果 高山市特定健康診査結果
	20～60歳代男性	24.7%	15%以下	28.8%	×	25.9%		②20～60歳代男性	28.8%	減少 国：30%未満	
	40～60歳代女性	14.4%	10%以下	15.8%	×	17.0%		③40～60歳代女性	15.8%	14.9% 国：15%未満	
	幼児（3歳児）のむし歯のり患率	21.1%	18%以下	(R3) 11.4%	○	(R3) 7.8%		④幼児（3歳児）のむし歯のり患率	(R3) 11.4%	減少	高山市3歳児健診結果
								⑤一日当たりの食塩摂取量(新設)	(R4)		県民栄養調査
								⑥20歳以上男性	11.1g	7.5g未満 国：男7.5g未満	
						⑥20歳以上女性	9.7g	6.5g未満 国：女6.5g未満			
						⑦一日当たりの野菜摂取量(新設)	317g	350g以上 国：350g以上	県民栄養調査		
楽しく食事をとる習慣を身につける	朝食を家族や仲間と一緒に食べる人の割合						2. 楽しく食事をとる習慣を身につける	朝食や 夕食 を家族や仲間と一緒に食べる人の割合			高山市教育研修会「食生活アンケート」
	小学生	82.0%	95%以上	76.9%	×	78.6%		⑧小学生	76.9%	95%以上	
	中学生	71.0%	80%以上	68.8%	×	61.8%		⑨中学生	68.8%	80%以上	
	朝食を欠食する人の割合					(R4)		朝食を欠食する人の割合			岐阜県 3歳児の食生活実態調査
	3歳児	1.9%	0%	3.3%	×	4.1%		⑩3歳児	3.3%	0% 国：0%	
	小学生	1.2%	0%	0.9%	△	1.8%		⑪小学生	0.9%	0% 国：0%	高山市教育研修会「食生活アンケート」
	中学生	1.4%	0%	2.9%	×	7.9%		⑫中学生	2.9%	0% 国：0%	
	20代男性	33.3%	15%以下	23.9%	△	32.5%		⑬20代男性	23.9%	15%以下 国：15%以下	高山市健康診査結果
	20代女性	25.0%	10%以下	18.9%	△	28.3%		⑭20代女性	18.9%	15%以下 国：15%以下	
	30代男性	11.4%	10%以下	23.1%	×	24.6%		⑮30代男性	23.1%	15%以下 国：15%以下	
	30代女性	9.5%	8%以下	13.2%	×	19.6%		⑯30代女性	13.2%	8%以下 国：15%以下	
地元食材を積極的に取り入れるとともに、地域の伝統的な食文化を継承する	学校給食使用食材に占める飛騨産食材の比率（重量ベース）	64.0%	67.0%	63.9%	×	(R4) 60.3%	3. 地元食材を積極的に取り入れるとともに、地域の伝統的な食文化を継承する	⑰学校給食使用食材に占める飛騨産食材の比率（重量ベース）	63.9%	67.0%	高山市学校給食センター調べ
	地元産の農産物を意識して活用した食生活を送っている市民の割合	83.8%	100%	76.1%	×	76.1%		⑱公設卸市場青果物取扱量に占める飛騨産の比率（重量ベース）（変更）	11.6%	13.0%	高山市農務課調べ
	正しい箸の使い方ができる小学生の割合	51.1%	100%	35.1%	×	—		(削除)国や県と比較できないため削除			
食に対する関心と、感謝の気持ちを深める	食事の際にあいさつができる小学生の割合	67.5%	100%	67.8%	△	70.2%	4. 食に対する関心と、感謝の気持ちを深める	⑲食事の際にあいさつができる小学生の割合	67.8%	100%	高山市教育研修会「食生活アンケート」

※1 ○目標達成 △目標達成していないが改善している ×改善していない